

## メイ首相の最終局が始まる

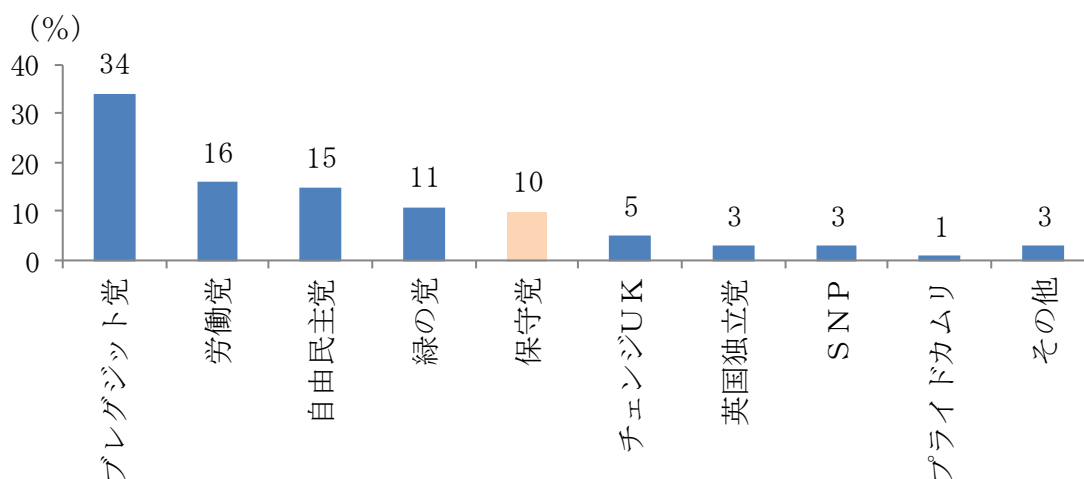
～欧州議会選後に離脱協定法案の審議を開始～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部  
 主席エコノミスト 田中 理 (TEL: 03-5221-4527)

◇ メイ首相は6月第1週に離脱協定法案を議会に提出し、7月後半に始まる夏季休会前の成立を目指す方針を発表した。関税同盟への残留を軸とした与野党協議の行方に暗雲が広がっているうえ、保守党を取り巻く政治環境の悪化で議員の態度も硬化している。法案成立に必要な賛成票が得られるかは疑わしい。見切り発車の法案審議が失敗に終わり、メイ首相はこのまま退陣を余儀なくされる可能性が高い。後継首相の下で再開される離脱協議も難航が避けられない。強硬離脱派の後継首相誕生時や10月末の協議期限が近づくとつれ、合意なき離脱の不安が再燃しそうだ。

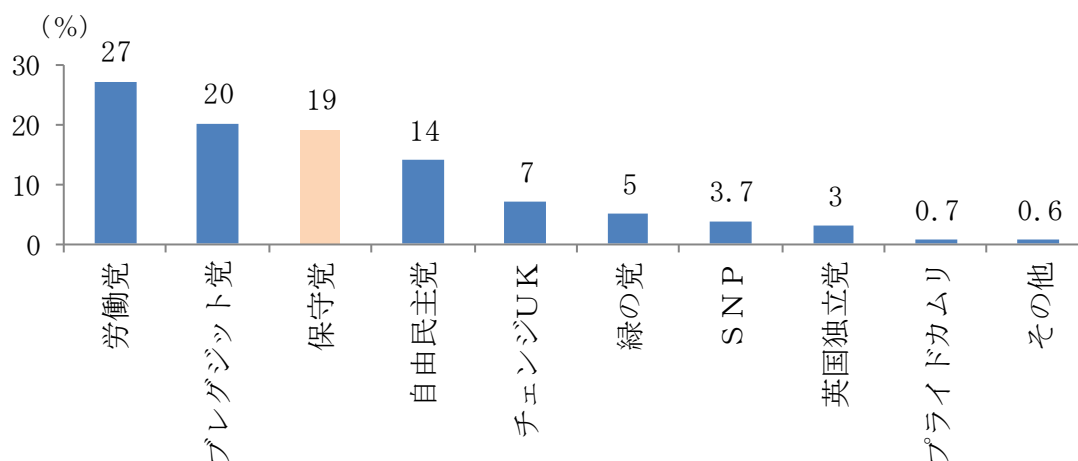
EUからの離脱協議が難航する英国では、メイ首相が率いる保守党の支持率低下が止まらない。23日に投票が迫る欧州議会選挙の世論調査では、かつて英国独立党(UKIP)を率いたファラージ氏が旗揚げしたブレグジット党が30%前後の支持を集める一方、保守党の支持率が10%台前半で低迷、2日の統一地方選挙で躍進した残留支持の自由民主党や緑の党に抜かれる調査も出てきた(図表1)。次の国政選挙での支持政党を尋ねる世論調査でも保守党への逆風が強まっており、一部の世論調査でブレグジット党に抜かれ、自由民主党との差も縮まってきた(図表2)。保守党が失った離脱支持層の多くがブレグジット党に流れたほか、離脱協議で曖昧な態度に終始する最大野党・労働党の残留支持層の多くが自由民主党に、離脱支持層の一部がブレグジット党に流れている。

(図表1) 英国の欧州議会選挙の政党別支持率調査



出所: YouGov資料(5/8-9に調査)より第一生命経済研究所が作成

(図表 2) 英下院選挙の政党別支持率調査



出所：ComRes資料（5/9に調査）より第一生命経済研究所が作成

こうしたなか、保守党内の非閣僚議員の意見を代表する1922年委員会のブレイディー委員長と、ジョンソン元外相、ラーブ元EU離脱担当相、ウィリアムソン元国防相などの閣僚経験者は13日、メイ首相に対して関税同盟への永久残留を軸とする労働党との協議の再考を求める書簡を送った。署名した議員は強硬離脱派として知られる議員が中心だが、何れも3月29日に行われた3度目の合意受け入れの下院採決で政府方針を支持していた。首相がこのまま労働党と手を結ぶ場合、今後の合意受け入れ採決で反対票を投じる意向を示唆している。同日には影のEU離脱担当相として労働党内で与野党協議を指揮するスターマー議員が、合意内容の受け入れ是非を国民投票に諮る方針が盛り込まれない限り、120～150人程度の同党穏健派議員が与野党合意を支持しない可能性があることを示唆した。同議員はまた、メイ首相が保守党内から退任スケジュールを明らかにするように求められている点に触れ、そうした事態となれば与野党協議の行方は一段と厳しくなると発言した。

14日に閣議に臨んだメイ首相は、議会の夏季休会（7月24日～9月3日）が始まる前に「離脱協定を実行に移す法案（以下、離脱協定法案）」の成立を目指すことを明らかにし、それまでの首相続投に理解を求めた。法案成立後、夏季休会中に後継党首の選出手続きを進め、保守党の党大会（9月29日～10月2日）前に党首の座を明け渡す（図表3）。法案審議に要する時間を考えると、聖霊降臨祭の休会（5月24日～6月3日）が明けた6月3日の週に離脱協定法案を議会に提出する。首相は16日に保守党の党首不信任手続きを所管する1922年委員会の幹部との面会を予定しており、こうした方針を説明する模様だ。急低下する支持率に保守党内に危機感が広がっており、首相との会談後に同委員会が改めて12月より前に党首不信任を解禁する党規則の変更に動く可能性も残る。

与野党協議の行方に暗雲が広がるなか、メイ首相は閣議後に労働党のコービン党首とも会談し、上記の方針を説明した。首相は協議の進捗を有権者にアピールする狙いもあり、欧州議会選前に離脱協定法案の発表を目指している。来週中に与野党協議を妥結するか、協議を打ち切るかの判断を労働党に迫っているとされる。今のところその可能性は低いが、与野党協議が急転直下で合意に至れば、その内容を離脱協定法案に盛り込む。合意内容を将来関係の政治宣言に反映する準備作業の

ため、メイ首相の側近がブリュッセルに滞在していることも伝えられている。与野党協議が合意に至らない場合も、与野党間で意見が一致する労働者の権利保護や財分野でのEUとの規制上の調和に関する内容は離脱協定法案に盛り込む方針だ。法案審議での労働党議員の協力を求める意向だが、労働党幹部は正式合意に至らない限り、法案審議に協力しない意向を示唆している。

与野党協議が決裂した場合、様々な代替案を議会で投票し、離脱方針の一本化を図る可能性も模索されてきたが、首相は結局、4度目の合意受け入れ採決に先駆けて離脱協定法案の審議を開始し、事態の打開を図る方針を固めた。ただ、与野党協議の行方に暗雲が広がっているうえ、保守党を取り巻く政治環境の悪化により議員の態度は一段と硬化している。仮に労働党の協力が得られたとしても、法案成立に必要な賛成票が得られるかは疑わしい。見切り発車の法案審議が失敗に終われば、メイ首相はこのまま退陣を余儀なくされそうだ。既に党首選を睨んだ有力議員のアピール合戦が始まっているが、保守党の党勢回復にはブレグジット党に失った離脱支持層を取り戻す以外にない。そうすると、メイ首相の後継者はやはり強硬離脱派が有力となる。議員投票で上位2名に絞り込み、一般党员による決選投票が行われる点も強硬離脱派に有利に働こう。EU側は離脱協定の見直しに反対しており、後継首相の下で再開される離脱協議は難航が避けられない。強硬離脱派の後継首相誕生時や10月末の離脱協議期限が近づくとつれ、合意なき離脱の不安が再燃しそうだ。

(図表3) 今後の英EU離脱関連日程

5月16日	メイ首相が1922年委員会幹部と面会
5月23日まで	英与野党協議の合意期限
5月23日	欧州議会選挙（英国の選挙日程）
5月24日-6月3日	英議会休会（聖霊降臨祭）
5月31日	英国が欧州議会選挙不参加時の離脱日程
6月3日の週	英離脱協定法案を議会に提出
6月15日	英保守党臨時総会（非公式の不信任投票）
6月20-21日	EU首脳会議
7月2日	欧州議会の新議会召集
7月24日まで	離脱協定法案を可決
7月24日-9月3日	英議会休会（夏季）
9月29日-10月2日	英保守党党大会
10月17-18日	EU首脳会議
10月31日	新たな英EU離脱期限
11月1日	EUの新執行部体制開始
12月12日	メイ首相に対する保守党党首不信任解禁
12月12-13日	EU首脳会議

出所：各種報道より第一生命経済研究所が作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。